

委員から出た意見感想	学校からの回答
1. 学校文化度の向上と地域からの信頼向上 i) 規律ある生活と「文武両道」による自立の促進 ・生活指導日誌はあるか。指導した記録が管理職まであがっているか。 ・成果が上がった時に、原因分析をして取組を振り返ることが大切である。 ・生活指導の視点をモグラたたきの的でなく、攻めの生徒指導になるよう期待する。 ・他校訪問をしたところ、教職員が管理職に挨拶をしないといったことが気になった。本校ではどうか。 2) 中高連携の教科と高大接続の円滑化 ・自分が高校生の時と一番違うと感じるのがホームページである。時々拝見するが、とてもよい取り組みだと思う。 ・近所の東高生が学校で何をどのようにしているのかが分かり、話がしやすい。 2. 教育力の向上 教科指導力の向上と教員研修	・紙媒体のものはないが、報告はきちんとあがっている。 ・1年は時間厳守を重視して指導してきたが、良い状況である。自転車の置き方が気になっている。2年生は時間厳守、挨拶、服装を指導してきたが、韓国研修旅行中でも大変きまりよく、現地ガイドさんからおほめの言葉をいただいた。3年はこれ以降生活指導をする必要のない指導をしてきた。今後教員は進路指導に専念できていると思っている。 ・生活指導のイメージを変えるために分掌改編を行った。悪いことをしない、させないといった指導でなく、やるべきことを進んでやるといった主体性育成が本校の生活指導である。 ・本校では良く挨拶や会釈をしていただいている。以前より来客に反応する職員が確実に多くなった。 ・ホームページのアクセスが、今年度飛躍的に伸び、現在10万件を越えている。広報の点ではうまく行っていると考えここはA評価とした。

の充実 ・エキスパート教員の現状と、どのような活動をしているのか。 ・そのような取組は計画的にやっているのか。	・県指定のエキスパート教員は現在数学、英語の２名である。先日岡山のエキスパート教員を招き、県内の先生方２０人程度の参加を得て、研究授業を行ったところである。 ・校内研修では各教科年間２回研究授業をすることとし、その他県外へ出したり来ていただいたり、全て企画の中で行っている。 ・生徒授業アンケートでも、生徒の授業評価は年々向上していることが読み取れる。
３．進路指導の充実 １）教員の進路指導力の向上 ・進路指導力を向上させる仕組みはあるか。 ２）大学合格者数の維持・発展 ・目指している姿がはっきり現れている。現状に満足せず、能動的に取り組もうとしていて好感が持てる。 ・企業では成果を出せばよいというところに行きつくが、本校では結果だけでなく、取り組む姿勢を大切に、教職員が手厚くサポートしている姿がある。その中で地域に有用な人材が育っている。頭が下がる。	・新旧担任会や進路判定会の場合、当該学年だけでなく全校の研修の場だと位置づけている。 ・本校の進路指導の方針は「学力は生活力なり」というものであり、教員誰もが生徒との面談を通して、一人の生徒を共に語れることを目指している。 ・教科の指導が足りない部分は学年がカバーしたり、クラス経営でも担任任せにしない取組を心掛けている。 ・３年は入学時は学力の低い学年であったが、教員が努力した結果、生徒も自信を持ち始めた感触がある。一方頑張り慣れていないので、少し頑張ると息切れしてしまう面もある。 ・東大を目指している生徒が部活動でも学園祭でもフォーラムでも率先して取り組んだ。決して勉強だけが出来ればよいと思っているのではない。専攻科生も現役時代に怠けていたから浪人しているのではない。難関大になればなるほど僅差で合否が分かれるのが実情である。高いハードルを自らに課して挑戦する若者に、再チャレンジの機会を準備するのが私たちの仕事だと思っている。
４．専攻科教育の充実 ・育友会会長の新聞記事に心動かされた。県民に広く実態	・現役との合同課外などを通して、相互に良質な刺激を与えあっている。

を知ってほしい。費用の面だけで存廃を判断せず、現状を見て判断してほしい。	・ 2 年後に廃止が決まったわけだが、廃止後に実績が下がらないような環境整備がなされることとなっている。大学受験は志望を下げれば確実に合格できるが、本来はどのレベルの生徒もぎりぎりの受験をしている。職員の手厚い支援で生徒は志望を貫くことができるので、人的な配慮を要請している。
5. 定時制教育の充実 ・ 次なるステップへ職員意識が変わってきたことを評価したい。東高の定時制にきたことを誇りに思える取組をお願いしたい。	・ 特別な支援が必要な生徒が入学しており、指導を工夫している。教員間の情報交換や保護者との連携等に取り組んでいる。 ・ 前回の会で生徒の進路意識を高める取り組みを要請されたが、4 年制の大学進学希望者や就職試験を受験する生徒が出てきた。職員も卒業させればよいという意識を変えて、卒業後を見据えた指導を心掛けるようになった。 ・ 生徒は誇りを持って卒業している。
6. その他 ・ 来年度に向けて、評価の基準を A B C といった達成度のイメージがしにくいものから、パーセントに出来ないか。検討してみしてほしい。	人権教育部 ・ 公開人権教育 L H R を実施し、保護者約 60 名の参加があった。成果があがっていると思う。 保健部 ・ T E A S に取り組み、生徒の主体的取組となるよう指導している。 学校長謝辞 ・ 課題を克服し、目標達成に向け一層努力していきたい。パーセント評価に関しては、何が 1 0 0 % かを定めないと評価ができない。数値になじまないものもあると思われるが、可能な限り検討することで、目指す姿が一層シャープになるものもあるかと思う。